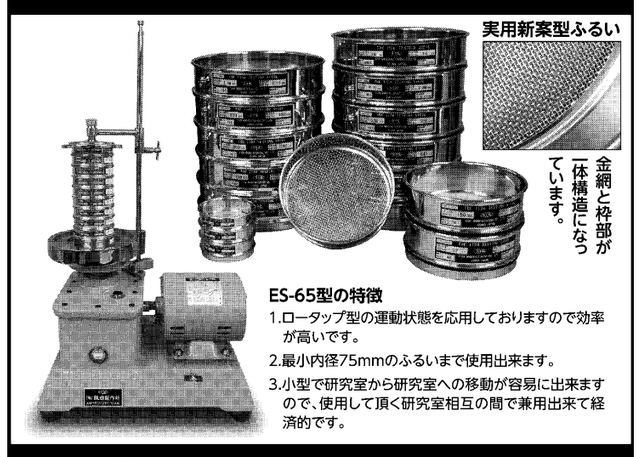
nihon medi+physics
お届けするのは「信頼」です。
Since2005 ── デリバリーPETのリーディングカンパニーとして人々の健康に貢献していきます。
2005年、私たちが日本で初めてPET検査用放射性医薬品の供給を開始し、以来、10年以上にわたり全国に製造拠点を開設、安定供給体制を整えてきました。
人々と明日の医療のために、私たちは、有用な製品や技術の提供を通じてこれからも皆さまの健康に貢献していきます。

半減期が約2時間のPET診断薬は全国11カ所のPETラボで製造され、ほぼ全国をカバーする安定供給体制を整えています。
日本メジフィジックス株式会社
〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号
TEL(03)5634-7006(代)
弊社ホームページでPET検査について紹介しています。
https://www.nmp.co.jp
2020年7月改訂

JIS試験用ふるい&
ふるい振盪機の専門メーカー


ES-65型の特徴
1.ロータップ型の運動状態を応用しておりますので効率が高いです。
2.最小内径75mmのふるいまで使用出来ます。
3.小型で研究室から研究室への移動が容易に出来ますので、使用して頂く研究室相互の間で兼用出来て経済的です。
S.I.K 株式会社 飯田製作所
URL https://www.iida-ss.com/

シオノギ製薬

歌には、人を癒すチカラがあります。
くすりも歌のように、人を励まし、勇気づけ、笑顔にするチカラがあります。
私たちは、くすりを通して
世界中の人々の健康に奉仕できるよう、
代謝性疾患・感染症・疼痛などの
疾患領域を中心に、
研究開発から製品情報の提供まで、
日々努力を続けています。
すべての人々の
クオリティ・オブ・ライフの向上をめざして。
SONG for you!　シオノギです。
S-O-N-G for you!

製薬産業

強み生かし開発競争　新薬最前線

がんは日本人の死因の一位（厚生労働省調べ）。一生のうち、2人に1人ががんになると言われるほど患者数が多く、治療薬の開発が活発だ。特に、がん細胞の特定の分子を狙って攻撃する治療薬は、効果が高く副作用が少ない治療薬として期待がかかる。また、近年増加傾向にある炎症性腸疾患では、新たな検査が保険適用となった。検査による治療効果の向上を目指す。製薬各社は強みを生かし、新薬や新たな検査の開発に力を入れる。

がん治療薬

副作用抑え効果高く

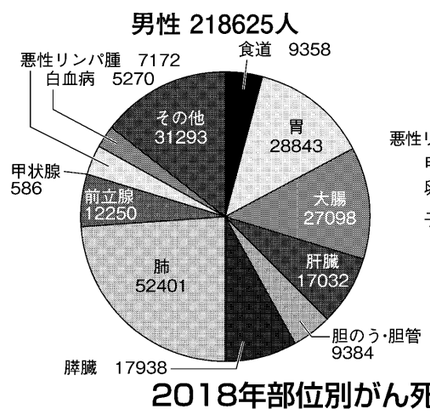
中外製薬の抗がん剤「テセントリク」（一般名アテゾリズマブ遺伝子組み換え）による治療は、がん免疫療法と呼ばれ、近年注目を集めている。がん細胞上には免疫細胞の攻撃回避を担う分子が発現する。薬剤の抗体がん細胞上の分子に作用し、患者自身の免疫細胞が効率的にがん細胞を攻撃するという治療法だ。

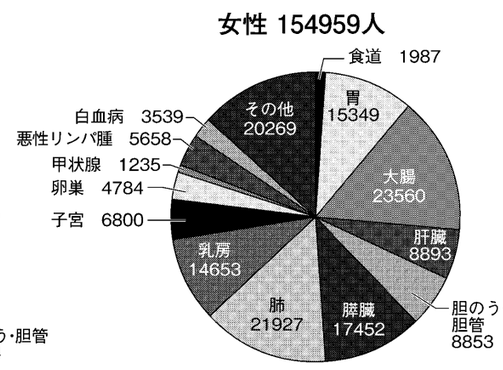
テセントリクはがん細胞上の「PD－L1」と免疫細胞のT細胞表面の「PD－1」といった分子が結合するのを阻害する抗体医薬品だ。がん細胞が免疫細胞を回避するブレーキ役の分子が働かなくなり、がん細胞が攻撃される。

テセントリクは2018年4月に、切除不能な進行、再発の非小細胞肺がんの治療薬として発売し、その後乳がんにも適応が広がった。さらに今後期待されるのは、抗がん剤「アバスチン」（一般名ベバシズマブ遺伝子組み換え）との併用療法だ。中外製薬は2月、切除不能な進行、再発の肝細胞がんの治療法として、テセントリクとアバスチンの併用療法の承認申請を行った。テセントリクとアバスチンを併用する治療で行った臨床試験では、標準的な治療法と比較して死亡リスクを42%、病気の進行も41%減少させるなど、がん免疫療法として、世界で初めて有効性を示した。米国と欧州でも承認申請を進めており、世界的に期待されている。

抗体を使った抗がん剤は固形がんだけでなく、血液がんの治療にも使われる。協和キリンの「ポテリジオ」（一般名モガリズマブ）は、特定の血液がん細胞に多く発現している分子を標的とした抗体医薬品だ。具体的にはT細胞白血病リンパ腫や末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫といった血液がんで、がん細胞に発現する「CCケモカイン受容体4（CCR4）」に結合することにより、免疫細胞のがん細胞への攻撃が活性化する。日本のほかに米国とドイツでも発売しており、抗体を使ったがん治療は世界に広がる。

これまでがん治療といえば、低分子化合物の抗がん剤が主流だった。低分子化合物は比較的合成がしやすく開発が進んだが、正常な細胞も攻撃してしまうため、副作用が課題だった。近年はがんの特徴に合わせた治療法の開発が活発化する傾向にある。特に抗体医薬品はがん細胞の特定の分子に結合することでがん細胞の攻撃につなげる医薬品だ。抗体医薬品という治療の選択肢が増えることで、効果的で副作用を抑えた治療が実現する。





2018年部位別がん死亡数（国立がん研究センター資料を基に作成）

炎症性腸疾患

血液検査で早期治療へ

近年、国内で炎症性腸疾患の患者が増加しつつある。炎症性腸疾患とは「クローン病」と「潰瘍性大腸炎」の2種類に分けられ、炎症により下痢や発熱といった症状が現れる。30年ほど前まではほとんど患者はいなかったが、現在はクローン病と潰瘍性大腸炎の患者は合わせて30万人にも上るとされ、悪化すると大腸の切除手術も必要となるなど、大きな問題となっている。

炎症性腸疾患は腸に炎症が起きて下痢や発熱といった症状が生じる活動期と、症状が落ち着いている寛解期を繰り返す。完治が難しいため、活動期の症状を抑え、寛解期を維持する治療が行われる。活動期の症状を抑えて病気の悪化を防ぐには、炎症を早期に捉えて治療を始めることが重要だ。

活動期の判別には下痢や発熱などの臨床症状が用いられる。しかし臨床症状がなくても内視鏡では炎症が生じていることがある。一方で内視鏡検査は手間や時間を要するため、頻繁に実施することはない。より簡単な検査で炎症を捉える指標が求められていた。

こうした中、血液検査によって炎症を検出する検査薬が登場。積水メディカル（東京都中央区）が開発、製造販売し、EAファーマ（同）とプロモーション提携した検査薬「ナノピアLRG」が6月1日、保険適応となった。炎症によって上昇した血清中の「ロイシンリッチα2グリコプロテイン」（LRG）を検出することができる。病院の検査体制などによるものの、採血を行ってから約30分－1時間程度で結果が分かり、検査結果を当日の治療に反映できる。

LRGの特徴は炎症部位で発現することだ。これまでは内視鏡による目視でなければ大腸の炎症を確認するのは難しかった。LRGの値は炎症症状に直接結びけることができるため、症状がない状態でも炎症を捉える手段として有望視される。ほかにも炎症を示す検査指標はあるものの、LRGは小さな炎症の検出が可能なため、早期治療が重要な炎症性腸疾患の指標として適しているといえる。

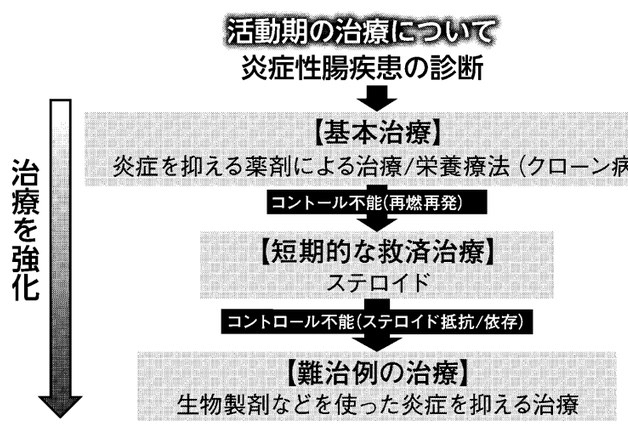
これまでの研究で、臨床症状によって炎症性腸疾患の活動期を判定し治療を行った場合と比較して、炎症に関連した検査指標に基づいた治療の方が効果的であることが分かっている。

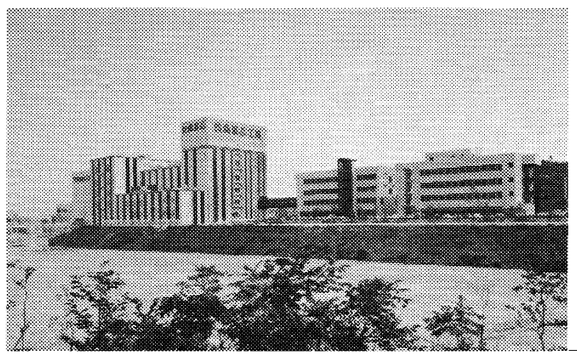
早期治療が可能な場合、将来的な医療費や、手術に至る症例が低く抑えられるという。こうした結果から、ナノピアLRGの検査が早期治療に結び付くことで、治療効果の向上が期待される。

新型コロナ流行の長期化が懸念される中、医療提供体制の観点から内視鏡検査が実施しにくい状況は続くと予測される。そうした中でも、炎症性腸疾患の患者は治療が必要だ。ナノピアLRGは早期治療に加え内視鏡検査の要否の判定にも活用できる。

血液検査で炎症を捉えるという利便性から、臨床での期待も大きいという。治療が難しい炎症性腸疾患も、検査による早期治療で寛解期を維持し、患者の生活の質向上に貢献すると期待される。

EAファーマと積水メディカルがプロモーション提携した検査薬「ナノピアLRG」




点滴などの輸液や
人工腎臓用透析液でのトップメーカー
私たち扶桑薬品工業は創業以来半世紀余、治療上不可欠な医薬品のみを一筋につくり続けて参りました。その成果のひとつが、点滴としてなじみ深い輸液や、人工腎臓用透析液の分野でのトップクラスの実績となってあらわれています。
私たちは、これからもたゆむことなく、生命関連産業に携わる一員として、真摯にその本分を尽くしてまいります。
明日の健康をめざして
扶桑薬品工業株式会社
●本社／大阪市中央区道修町1丁目7番10号
●本社事務所／大阪市城東区森之宮2丁目3番11号　TEL(06)6969－1131(大代表)
http://www.fuso-pharm.co.jp

100th ANNIVERSARY
すべての絆とともに歩む
あすか製薬は、2020年6月16日に創立100周年を迎えました。
1920年の創立以来、一貫して「創薬」にこだわり、
患者さんにとって価値ある医薬品の創製・提供を続けてきました。
これまでの100年を、これからの未来につなげていく。
「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」という
経営理念のもと、あすか製薬はこれからも、
人々の「生命（いのち）」に関わる企業として、
すべての絆とともに歩んでまいります。
あすか製薬株式会社
東京都港区芝浦 2-5-1
https://www.aska-pharma.co.jp